

市史編さんだより

～ふるさと「佐伯」の魅力を再発見！～

合併20周年の記念事業として始めた「市史編さん事業」は、本年6年目を迎え、いよいよ『佐伯市誌』発刊に向けて大詰めの段階となりました。昨年度には上巻の現代史編が完成、本年度は、中巻と下巻の完成を目指し、現在、編集・校正作業を進めています。令和6年度に発刊となる予定です。

これまで原稿執筆のための資料収集や調査等で、市内の各地域に赴き、改めて九州一の広さを実感し、豊かな自然や多様な文化に触れることができました。現地等でご協力をいただきました市民の皆様はこの場を借りて御礼申し上げます。

さて、すでに完成しました『佐伯市誌 上巻』の現代史編について、少しご紹介いたします。上巻は、現況・概要編(2章)・現代史編(11章)で構成し、戦後から現代までの佐伯市のあゆみをまとめています。荒廃した軍都佐伯から戦後の復興を遂げ、高度経済成長、昭和と平成の大合併等、激動の時代を経て現在の佐伯市へとつながります。

社会の移り変わりのなかで、どのように佐伯市が発展してきたのか。政治や経済、教育、福祉、文化、スポーツ、さらに観光や地域振興まで、多岐にわたる様々な分野での取組について記述しています。また、寿屋や大手前のにぎわいなど、昔懐かしい記事もコラムとして紹介されるなど、親しみやすい話題も盛り込んでいます。

この『佐伯市誌』が、市民にとってふるさと「佐伯」を知り、理解を深める、身近な書物となるよう、本年度完成に向け取り組んでいきたいと思っております。



市史編さん現代部会長
丸山 純一

(社会教育課長 丸山 純一)

「発行」
佐伯市教育委員会
社会教育課
市史編さん係
(TEL22-4095)
第9号

第1回市史編さん市民講座「佐伯の自然と生息する野鳥」開催



7月15日(土)、旧三余館で令和5年度第1回市史編さん市民講座「佐伯の自然と生息する野鳥」を開催しました!

今回は、市史編さん自然部会長であり、また日本野鳥の会大分県支部佐伯地区支部長を務められる武石宣彰氏を迎え、佐伯市の多様性に富んだ自然環境とそこに生息する数多くの野鳥について、写真を交えながら講演いただきました。

当日は70人を超える参加があり、講演後の質疑応答では多くの質問が寄せられ、盛況のうちに終わることができました。改めて、市民の方の自然に対する関心の高さを実感できる講演だったと思います。これからも、野鳥たちが暮らしていける豊かな自然を守っていききたいですね。

佐伯市誌は、佐伯の歴史だけでなく自然や民俗など、佐伯市について幅広く掲載します。今後も、市誌に関連した講座を行ってまいりますので、ご期待ください。

「佐伯城跡」が本市初の国の史跡に指定されました！



佐伯城跡山頂部全景（南東から）

佐伯城は、佐伯藩初代藩主・毛利高政によって、慶長7年（1602）から築城された近世の山城です。

標高146mの八幡山（城山）の山頂部に本丸、二の丸、西出丸、北出丸等の高石垣をともなう曲輪（くるわ）群を、山麓には藩主が居住した三の丸を配置。その曲輪配置は築城当初から現在まで、ほぼ変わっていません。中世山城の曲輪配置構造と、近世城郭の築城技術が融合して築かれた城郭です。

また、斜面を保護するひな壇状の石垣や、取水源としてだけでなく雨水や地下水等の排水・調整機能を担った雄池・雌池など、山全体を保護する遺構が残されています。

全国的にも貴重な近世城郭として、令和5年3月20日に国の史跡に指定されました。



本丸外曲輪北斜面のひな壇状石垣（北西から）

令和5年5月20日の佐伯城跡石垣清掃ボランティアの様子
過去最多、281人が参加してくれました！



私達は昔から「城山」と呼んで親しんできました。貴重な城跡としてだけでなく、かつて国木田独歩も愛した豊かな自然や眺望、雰囲気等も含んでそう呼ぶのでしょう。これからも「城山」に親しみ、大切にしたいですね。

令和5年度上半期 市史編さん活動の報告

令和5年度は、中巻（先史～近代編）と下巻（自然・民俗・文化財編）の印刷を行います。なお、今年度前半は、下記のとおり委員会・市民講座・調査等を実施しています。

- 4月 1日（土） 民俗調査（五所明神 春の神幸祭）
- 4月 2日（日） 民俗調査（五所明神 春の神幸祭）
- 4月 5日（水） 文化財調査（石塔等）
- 4月14日（金） 令和5年度佐伯市史編さん資料調査編集委員会総会
- 4月14日（金） 令和5年度佐伯市史編集委員会
- 7月15日（土） 第1回市史編さん市民講座
（演題：佐伯の自然と生息する野鳥）

【問い合わせ・連絡先】

佐伯市教育委員会 社会教育課 市史編さん係
☎ 22-4095
✉ hensan@city.saiki.lg.jp



白坪杖踊り
五所明神春の神幸祭（4月1、2日）で、3年ぶりに白坪杖踊りが奉納されました。地元小中学生（20人）を中心に、約1か月前から練習を重ね、お立ち当日は五所社と住吉社で杖踊りを奉納し、その後桜まつりのステージでも華麗な舞を披露。緊張した中にもきびきびとした身のこなしが印象的でした。